

第五講 暗黒時代像の修正

暗黒時代への道

花粉データから見た暗黒時代のギリシア

南アルゴリス、キラードの事例

牧畜の衰退とオリーブ栽培の発展

青銅器時代の終焉

12 世紀 (LHIIIC)

連続と衰退、集住と避難、活発な交易、
文化の地方分化

11 世紀 (LHIIIC から SM へ)

貧窮と孤立

居住地の減少 (13 世紀 : 約 320 ;

12 世紀 : 約 120 ; 11 世紀 : 約 40)

(Snodgrass, 2000, 364)

人口減少 : 四分の三以上減少

(Snodgrass, 2000, 367)

アプシダル・ハウス

ドーリス人にまつわる伝統的学説への批判

火葬 (前 1100-900 年) の分布 :

ドーリス人の住むペロポネソスではなく、ドーリス人に侵入されたという伝承
のないアッティカから小アジアに分布。

東方のほうが早い。

石郭墓及び土坑墓の分布

中期ヘラディック文化の復活

テッサリア・ボイオティア・アッティカ・アルゴリス・エーリス・エペイロス

民族移動が伝えられている地

(例外 アッティカ)

鉄器の分布

アッティカ、アルゴリス、テッサリア、ナクソス、小アジア西部、クレタ

アルゴリスから東に分布

暗黒時代の社会

暗黒時代は身分格差のない部族社会だったか

青銅器時代の文化的特徴が消滅していき、鉄器時代の特徴が明確になって行く。
変化は連続的・漸進的であって、断続的ではない。

地域間の相違の拡大：

アテナイ：単葬の伸展葬の土葬（SM）

アルゴス：単葬の伸展葬の火葬（SM）

クレタ：集合葬の土葬（SM）

青銅器時代の中心地が暗黒時代の中心地であり続ける。

中心核地＝小さな集落群

中心核地への人口集中

（LHⅢC 期以来の人口集中）

中心核地を構成する小集落の相対的自立：

独自の墓地の存在

身分差別の非常に強い社会：

アガトイとカコイ

小集落におけるデュナトイの存在

＝戦士の墓

集落における個々の住居の不安定生

＝井戸の使用

二次的集落の不安定生：

ビッグマン支配の不安定性

副葬品（土器と金属器）による SM 期～LG 期の埋葬母集団の均質性に関するローレンス曲線を利用した分析

SM 期・LG 期・・・不均質

PG 期・EG/MG 期・・・均質

土器及び金属器から見た暗黒時代の趨勢

暗黒時代の大部分

プロトジオメトリック～中期ジオメトリック

均質な集団

暗黒時代の初期と末期

不均質な集団

成人と未成年者の埋葬比率

前 720 年以前＝暗黒時代

成人と未成年者の埋葬者数の大きな格差

年齢による被葬者集団から排除